特集

理事・副学長　紹介

お茶の水女子大学には国立大学法人法によって学内理事三名、学外理事一名がおかれ、学長、副学長と共に役員会を構成しています。また、学内理事と副学長は、本学の運営を担う四つの機構の各機構長を兼任しています。

各理事・副学長に紹介と今後の抱負を述べていただきました。

学内理事　教育機構長

市古　夏生

過去三年間、副学長として教育、学生支援、入試分野を担当してきたので、特に新たな抱負というものはありません。ルーティンワークとしての業務をミスなく遂行すること、学生の視点から改革を行うことという二点を大切にします。幸いなことに、室長に人材を得ましたので、今年度一年間で不具合が大いに改善されると思います。

学内理事　総務機構長

松本　勲武

名門の良い伝統を引き継いでお茶大をさらに発展させていくには、たゆまぬ改革の努力が求められます。改革には変化がともないますが"Everybody loves progress, but nobody likes change."が世の常のようです。変える、変えないに関しては、"Serenity Prayer"がよく引用されます。私どもは受け身ではなく、主体的に改革を進められればと願っています。本田学長が常々表明されているように。「すべては私どもの決意と意欲にかかっている。」

学内理事
国際・研究機構長

室伏　きみ子

「世界に羽ばたいて…」

この二年間、理学部長として、国立女子大学の理学部の在り方について検討を重ね、これまでの本学の伝統の上に、魅力ある新しい学問と教育の場を再構築する事を目指して来ました。四月から、国際・研究担当理事を仰せつかりましたので、本学が国際社会でどの様な貢献をし、また、どの様な世界レベルでの研究を開花させられるかを、教職員や学生の皆さんと共に考え、そのための実践・活動をしていきたいと思っています。

学生の皆さん、お茶の水で、豊かな知性を身につけ、独自の学問・文化を花開かせましょう。そして、様々な分野でリーダーとして活躍できる女性となって、世界に向かって大きく羽ばたいて下さい。若い皆さんが、広い国際社会で、なくてはならない存在となるために、私たちはお手伝いを惜しみません。

副学長　学術・情報機構長
附属図書館長

山本　秀行

お茶大のほぼ中央に、滝のある快適な広場が誕生しました。この憩いの空間を取り囲むように、右手には総合情報処理センターのパソコン室、語学自習室、マルチメディア教室があり、正面の丘の上には附属図書館が広がっています。これらサーヴィス施設と、この『Tea Times』を担当するのが縁の下の力持ち、学術・情報機構です。

学外理事
（現 数理科学振興会理事長）

廣中　平祐

女子の高等教育の要望は特に十九世紀後半から世界的に指数的に増大したようだ。日本で、お茶の水女子大学が果たした役割は甚大であった。米国では、私の滞米中の一九六〇～一九八〇において、優秀な女性オピニオンリーダーたちの活躍は実に顕著であった。彼女たちの発言は男女を問わず若者の人生観・社会観・世界観に強い影響力を発揮していた。

一九七〇年代から始まった男女共学の浸透やフェミニズム運動の拡大は米国流の勢いで驀進したが、やがて行き過ぎの反省もあって、教育環境における差異化と多様性を尊重する思想が広く支持を取り戻しつつある。

理学の人間である私にとって、米国の理数系初等中等教育において女子にとっての適性環境が見直されていることは興味深い。私と仲間が始めて今年で二五年目を迎える高校生「数理の翼セミナー」のOB達の間では、女性メンバーの活動と貢献が素晴らしい。女性の高等教育は日本が国家として成熟を続けていくために肝要であり、お茶の水女子大学の存在に大きな期待を寄せるところである。